

これは、二〇一九年十二月三十一日に国内で初めて報じられたもの。そのころの私は、ニュースを聞いて「どうせ、外国の話だから。」と他人事にしか思っていなかった。隣国、中国での出来事だから心配だという気持ちは少しあったものの、本当に他人事だった。

一月に入り、日本国内で初の感染者が神奈川県で出た。国内初の感染者というのもあり、私は小さな不安を抱え始めた。その後も感染者は増え続け、芸能界でもいろいろなお所で感染者が出始め、感染が全国各地に広がっていった。感染者がだんだん増えていくのと同時に、私の心にも不安と恐怖が増えていった。その後、緊急事態宣言が出され、私たちの生活ががらりと変わってしまった。自分がいつ感染するかもわからない。いつ、この新型コロナウイルスが終息するかもわからないまま、感染予防をしっかりとしようとした。

た。「私の祖父が感染した。」というものだった。私たち家族は祖父母と同居していて、どう見ても元氣そうな様子だった。しかし、知らないところでそんな噂が広まっているらしく、驚きと恐怖でいっぱいになった。自肅中、友達に会えなかったため、よく電話で話をしていった。祖父の噂もその時の電話や、地域の方から聞いたものだった。祖父の噂が本当でないことを友達に理解してくれ、落ち込んでいる私を励ましてくれた。つながっている友達にはすぐに本当のことを伝えられても、自肅中会えない学校の皆にどのように思われているのだろう。私にかかわる人たちが事実無根の噂をしているのではないかと怖くなった。家族でも話し合った。祖父がそのようなことを言われているのだから外出も自肅した方が良いのではないか、別に事実ではないのだから堂々としていた方が良いのではないかなどの意見が出た。私は、堂々としていたかった。ある友達は、そ

の噂が嘘であることを自分の家族を通じて、広めてあげると言ってくれた。また、先生にも相談したら辛い気持ちを理解し、励ましてくださった。私はその時、支えてくれる人がいることがこんなに救われるのかと思ひ、心強かった。幸い、その噂はすぐになくなったものの、あの時の気持ちは忘れられない。

こんなことがあってから、私は感染者の情報に敏感になった。「〇〇さん、コロナらしいで。」とか「□□(地域名)でコロナ出たらしい。」という本当なのか嘘なのかどうかわからないような話は信じないようにした。自分の祖父の噂が流れる前は、自分もそんな噂を信用したことも少なからずあった。その時は、その情報が事実であろうとばかりうと信じていたかもしれない。しかし、もし、その噂をすることで悲しむ人がいたとしたら、それはとても恐ろしいことだと気がついた。

これは、私が経験した新型コロナウイルスに関するほんの一例に過ぎない。他にもデマを流され、そのせいで周りから嫌な目に遭っている人がいるかもしれない。このウイルスが人間にとつて未知の無理もない。しかし、だからと言って、真実か否か自分がその事実をよく知りもしないのに人に話したり、広めたりすることは絶対にやめてほしい。私のように嫌な思いをする人もいるだろうし、私よりもっと大きな悲しみを背負っている人もいると思う。その人の立場になって今一度考えてほしい。その情報を発信することで傷つく人はいないのかを。私たちが恐れるものはウイルスであり、人ではないのだ。私が苦しい時、友達に支えられたように今度は私も人を支えられる人間になりたいと思った。もう誰が感染してもおかしくない時期にきている今、私たちは互いに攻撃し合うのではなく、助け合い、支え合える社会を作っていくかなければいけないと強く思った。

2020 人権標語
第2部(小学生高学年)佳作

友達の 失敗ゆるせる 広い心

志筑小学校 5年
松下 怜愛

2020 人権標語
第2部(小学生高学年)佳作

幸せだ みんなと会える 毎日が

志筑小学校 4年
長谷 道太郎

2020 人権標語
第2部(小学生高学年)佳作

さしのべて 誰かの手じゃなく 自分の手

津名東小学校 4年
中谷 彪